



## 説教要旨 「取るに足りない僕です」

ルカによる福音書 17章 1～10節

「つまずきは避けられない。だが、それをもたらすものは不幸である」(1節) イエス様は弟子たちにそう語りかけ、つまずきは避けられないが、つまずかせる者にはならないようにと教えられました。つまずかせるのではなく、「もし兄弟が罪を犯したら、戒めなさい。そして、悔い改めれば、赦してやりなさい。一日に七回あなたに対して罪を犯しても、七回あなたの方を向いて、『悔い改めます』と言うなら、赦してやりなさい。」(3,4節) と。

この教えを聞いた弟子たちは、自分にそこまで誰かの罪を赦すことが出来るだろうかと不安に思って「わたしどもの信仰を増してください」(5節) とイエス様に願います。けれどもイエス様はそのような彼らのことを、「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう」(6節) と嘆かれるのです。“からし種”は非常に小さな種です。その一粒ほどの信仰があれば、驚くような奇跡を行うことができる、と言う。しかし、このような奇跡を起こせる者がいったいどこにいらっしゃるのでしょうか。ここでイエス様は、弟子たちの「わたしどもの信仰を増してください」との願いの根底にあった、“わずかなりとも自分には信仰がある”という自負を全否定されているのです。私たちが自らに問い、吟味すべきことは、自分にはどれくらい信仰があるか、以前に比べて信仰がどのくらい増したか、誰かと比べて信仰深いかどうかなどではなくて、自分には信仰が“ある”のか“ない”のか、です。そしてそう問われたとき、桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と命じても従わせることなど出来ない私たちは、「自分には信仰がない」と答えるしかないのです。

神様にとって私たちは「取るに足りない僕」でしかありません。しかし神様はこの取るに足りない僕を、そのそばに置いてくださっているのです。それは私たちが何かしら役に立つからではありません。ただその憐れみによることです。神様がこの取るに足りない僕と共にいてくださる。その喜びをもって主に仕え、歩んで参りましょう。

(2020・2・9 説教者：稲垣真実)